

## 6年ぶりに「きものワインパーティー」が復活

桐生織物(協)

和装需要の拡大を図ることを目的に「桐生きものの日」としている11月3日、桐生市・桐生織物会館にて「きものワインパーティー」を開催。コロナ禍を経て6年ぶりの再開となり多くの参加者が着物姿で食事とワインを楽しんだ。

また、10月28日から開催した「機屋感謝市」では、産地ならではの高品質なきものや帯を手頃な価格で提供し、多くの来場者で賑わった。さらに「きもの児童画展」では、桐生・みどり両市の子供たちが描いた力作が展示され、次世代へ地場産業の魅力を伝える貴重な機会となった。



多くの参加者で賑わいを見せたワインパーティー

## 現場の安全意識向上へ 事故防止対策を学ぶ

群馬県塗装看板(協)

11月18日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、「現場における事故防止対策」をテーマに講習会を開催。講師は、建設業労働災害防止協会群馬県支部の前原悟専務理事。

建設業の労働災害について、近年横ばい傾向にあるものの「墜落・転落」が全体の約3割を占め、依然として最多であることを説明。現場の約半

数で法令違反が確認され、特に足場や手すりの不備など墜落防止に関する違反が多い現状を指摘した。

また、自然災害後の復旧作業におけるリスクにも言及。瓦礫の踏み抜きや石綿含有の危険など、通常とは異なるリスクに対し、保護具の着用徹底や明確な作業計画の策定が必須と説いた。

最後に、労働災害の多くは危険軽視や慣れといったヒューマンエラーが原因であるとし、一人ひとりが基本ルールを確実に守る意識を持つことの重要性を強調した。



安全確保のポイント  
を解説する前原氏

## 手形・小切手の廃止を見据え デジタル化への移行を学ぶ

群馬県農業機械商業(協)

11月18日、前橋市・前橋商工会議所会館において、「中小企業のためのでんさい・インターネットバンキング活用術」をテーマに講習会を開催。講師は、中小企業診断士の堀江康彦氏。

国は2026年度を目途に手形・小切手の全面的な廃止を目指しており、中小企業にも安全かつ効率的な決済手段への速やかな移行が求められている。その代替手段として「でんさい(電子記録債権)」と「インターネットバンキング」の二つのデジタルツールについて説明した。

「でんさい」は、印紙税等のコスト削減や紛失リスクの解消、債権の分割譲渡による資金調達の柔軟性向上といった利点があると解説。また、インターネットバンキングの活用が、窓口への移動時間削減による業務効率化や、振込・承認権限の分離設定による内部統制強化に繋がる点を説いた。



でんさいやネットバンキングの活用方法を学んだ